

## 令和3年度 技術科

学年	学習状況の現状分析と課題	指導方法の課題・改善策・補充・発展指導
1学年	前期は家庭科を実施	
2学年	熱心に取り組んでいる生徒が多い。作業において時間差のできる事が課題である。	勝手に進む生徒に関しては、要所で生徒の制作状況をお互いに確認する作業を入れる。また、実習において教師の指示の待てない生徒に関しては毎回確認し、修正していく。また、繰り返し説明し確認していく。
3学年	3年になり、熱心に取り組む生徒が増えてきている。しかし、取り組む集中力に欠ける生徒もいる。	具体的に個別に取り組むべき内容を、説明すると共に、進度に合わせていくつかの見本を準備する。実際に見ることにより理解が高くなる。また、同じ内容を続けると、集中力が切れてしまう生徒もいるので、短期課題を途中に入れて気持ちを入れ替えられる工夫をする。3年生には具体的に良くなる方法をいくつかあげていき、よりよい作品が完成できるように指導する。説明は毎回何度も授業の初めに行い確認する。さらに途中でもここに説明する。

## 令和3年度 家庭科

学年	学習状況の現状分析と課題	指導方法の課題・改善策・補充・発展指導
1学年	①授業に積極的に参加している。発言する機会も多く、ワークシートの記入もしっかりと自分の考えをまとめることができてきている。 ②被服実習では、小学校で学んだ技術を活用し、さらに発展した中学の課題にも熱心に取り組んだ。	①これからの生活を展望して課題を解決する力を養えるよう課題を工夫していく。 ②被服実習はコロナ禍の中、消毒や換気を行い安全に実施することができた。しかし、調理実習は実施することができていないため、代替の課題を夏季休業中の課題で対応していく。
2学年	前期は技術科を実施	
3学年	①授業や課題に熱心に取り組むことができてきている。時数が少ないため、授業内にたくさんの要素を入れており、学習スピードも速いが、しっかりと取り組むことができてきている。 ②保育分野の学習の中で自分の幼いころを振り返ったり、家庭で自分の幼いころの様子を聞いたりすることで、より実践的な学習活動に繋げることができてきている。	①授業内では、短い時間の中で課題に取り組むことが多いため、時間を意識して取り組めるよう指導していく。全体的に発言が少ないため、自分の考えをまとめ、積極的に発言していきけるよう促していく。 ②家庭科の内容は実生活に即しているため、学んだことが実生活にフィードバックできるような題材を選び、活用できるようにしていく。